



2011年12月7日放送

印象に残る症例①

福島県立医科大学 器官制御外科学 助教 **渡辺 久美子**

(現・独立行政法人国立病院機構仙台医療センター 乳腺外科)

女性外来には実に様々な症状を抱えた女性の方が訪れます。どこの科にいても異常なし、しかし症状はあるのです。つらいから結局ドクターショッピングをしてしまうことも。最後には気のせい、更年期じゃないの？ 精神科紹介しようか？ などいわれ泣き寝入りする女性もいらっしゃいます。

その患者さんは2009年の6月に女性外来の門をたたいてやってきました。

当時41歳、150cm、38kg、血圧108/72、専業主婦の方です。ここ数年間の医療機関への受診歴、薬歴と生活歴などが書かれたファイルを抱えてやってきました。

問診表にはかなり細かく症状が書き連ねられていました。

更年期様症状は？ 動機、肩こり、頭痛、めまい、耳鳴り、耳鳴りは以前からあるが細かい症状がその都度違う。

痛みは？ 頭痛、肩の痛み、左あばら骨が時々痛む。

その他、鼻づまり、胸骨の下のあたりの引きつり感、顔のこりのような違和感、喉がゴロゴロ。

アレルギーは？頭に湿疹、体のかゆみ。

以前、麦門冬湯を服用したら咳が止まらなくなった。整形外科の痛み止めで顔に湿疹。その他合わない薬が沢山ある。

聞きたいことは、以前左目が腫れた時にたびたび症状が出るようなら脳、心臓の大きな病気の前触れかもしれないと言われた。まだそのリスクがあるのだろうか？

なぜ女性外来を受診したかという、母親が更年期の時、複数の病院を受診したが、症状が改善されず本人や家族の負担が大きかった。そのような姿を見ているから、同じような症状があるので、とても心配だったからとのことでした。

話を聞いてみると頭痛やめまいが強く、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかゆみにも苦しんでいるとのこと。めまいが起るときは洗濯物、本、排気ガス、化粧品、香水の匂い、お店の中の匂いで起こることが多い。抗アレルギー薬はあまり効かなく、痛み止めの薬は体に合わなくなってきた。漢方は大丈夫と言われたのに、咳止めの漢方で余計咳がひどくなってしまい、漢方も合わないのではないかと心配していました。薬どころか化粧品も合わなくなってきた化粧水だけにしている、化粧すると顔が熱くなる、高価な美容液を買ったので肌に合わないと困るんです。日焼け止めも肌に合わなくてニキビができる。指輪をしていると指がかゆくなる、金属アレルギーかもしれない。ウーロン茶や杜仲茶、甜茶などを飲むとお腹を壊してしまう。どこに行っても治らないし、特に病名もつかない。徹底的に調べて欲しいです。とのことでしたので、まずは皮膚科に紹介を出しました。あらゆるアレルギー検査をしていただいたのですが、調べられる範囲では食物、金属、化粧品などに関して、アレルギーはありませんでした。同時に耳鼻科で花粉症やめまいの検査も行ったのですが、異常はなく、症状に対して薬を勧められたのですが、薬物アレルギーが多いということで処方希望されませんでした。

ここからがこちらの出番で、ご本人に専門の科での検査では異常がなかったけれど、症状があることは辛いことですよね。薬も安易に内服できないというのも大変なことですね。漢方にもいろいろあってアレルギーに効く漢方もあります。少量から試してみませんか？ということで香蘇散を処方してみました。全体的に心気症で元気がなく、アレルギーにこだわっていたので、高山宏世先生の漢方常用処方解説には魚介類を食べて起こった蕁麻疹に奏功するとしか書いてはいなかったのですが、アレルギーに関係しそうですし、匂いでめまいなどの症状もあり、香のある香蘇散が頭にずっと浮かんだのです。

一週間後、半量から飲み始めたこと、内服すると眠くなることを報告にいらっしやいました。ご自分で更に用量を減らし、一日0.5包というかなり少ない量に調整して1ヵ月継続しました。そうしたところ掃除、洗濯が少しずつできるようになってきた、眠くなるのもひどくなく慣れてきた。頭痛があつて鎮痛剤を飲んだが副作用がなかった。めまいも少なくなってきた。一時1/3にしたがそれでは薄すぎる、半分くらいが丁度いい。加味逍遥散も考えていたが体調が上向きになってきており、ご本人もアレルギーを抑えてくれると

喜んでいたので、このまま香蘇散を継続することにしました。

経過観察中に、めまいの訴えが出てきて、苓桂朮甘湯を処方してみました。そうしたところ眉間の正面から突き抜けるような衝撃、動悸があり、のどの圧迫感があった。シナモン風味の生姜湯みたい。甘草の甘さもしっかりありますね。耳鳴りは落ち着いていました。しかし、地震の前にはかならず耳鳴りがあるとのこと、次に半夏白朮天麻湯を処方してみました。かなり反応が敏感な方で早速感想を報告してくださいました。内服した最初の3日間は肩、僧帽筋のあたりが熱っぽく暑くなったりして変だった。頭痛、耳鳴りは減少しめまいはほとんどなかった。めまいはお店の中の匂いで起こることがありましたが、買い物には行けるようになった。しかし、やはり香蘇散が一番いいみたいで、処方を香蘇散に戻して飲んでいきます。少量を毎日飲んでいて2袋で5日もちます。とのことでした。

とうことで、初診から2年。現在も外来にいらっしゃいますが、当初の様々な訴えはなくなっていました。3月11日の震災後は、やや疲れがたまっていたみたいですが乗り切れたようです。がれきの片付け、放射線の測定、野菜、お米はどこのもを食べるのか、県外に避難しなくていいのか、など以前はそのような問題に対してはほこりのアレルギーが、とか咳が出るとか、放射能が怖くて外にでられない、県外に逃げる、野菜も怖くて食べられないなどと言出しそうだったのですが、しっかりと現実を見つめ、町内の除染活動に加わり、地元に住み、食事もしっかり摂っているようです。2年前の症状が嘘のようです。残っている症状は地震前の耳鳴りです。しかし、これに関しても「地震数分前だったり何の耳鳴りかわからないのが残念です。もし予知できるんだったら凄いい体の症状なんだけど」、などと言えるようになりました。

最近、放射線問題に対するご近所さんとのやりとりに疲れ果て、倦怠感を訴えておりましたので十全大補湯を処方に加えてみました。これは体力低下、疲労倦怠などにも使っていて放射線治療を受けている患者さんなどにも副作用軽減の目的などで処方したりしているんですよ。免疫アップの効果もあり、今の体や環境の状態を考えるとちょうどいい漢方ですよと説明して処方しました。

さて、最近の外来での会話です。

こんにちは、前回処方したお薬は試してみましたか？「AKBですか！あれはいざというときに取っておこうかと思ってまだ飲んでいません。」

んん？私、十全大補湯を処方したんだけど…？と聞いていたら、患者さんから「48番だから、旦那と二人でAKBって呼んでいるんです！」と。あー、そういうことか。初診時はこんなことを言える人ではなかったもので、とても嬉しくなりました。しかし、この外来から卒業できないということは私がやぶなんです。すみません。と言っても、いまだに卒業しながら私の外来に嬉々としていらっしゃっています。今度は漢方薬にどんな名前をつけてくれるか楽しみです。

まとめに入ります。

今回の症例では香蘇散を用いました。この処方では胃腸に元気を与えながら気をめぐらす処方です。適応では風邪の初期とされていますが、今回のようにめまいが見られるのも診断のポイントになります。

香蘇散・苓桂朮甘湯・半夏白朮天麻湯と使用してみましたが、患者さんは香蘇散が一番自分に合っているとのことでした。

それぞれ香蘇散は気鬱、苓桂朮甘湯は気逆、半夏白朮天麻湯は気虚に対して用いられます。今回は香蘇散によって気のめぐりが改善し、愁訴が治まってきた、と考えることもできるかと思います。